

# 適切な排尿パットへ変更してみえてきたこと

## —コスト削減と職員の意識改善への波及効果—

部署名：介護老人保健施設嬉野の園

発表者：花城 礼子

また、研究期間中は全対象者に皮膚トラブルの報告はなかった。

### 【はじめに】

近年、高齢化社会が日常的に聞かれる。当入所棟は定床 40 名の認知症専門棟で、平均年齢 84 歳、平均介護度 3 となっている。オムツ使用の入所者が多く、それに伴い年々オムツのコストが増加していく傾向にある。更に新型コロナウイルスの影響もあり、経営面の課題が顕著化してきた。今回、排泄ケア時に尿量測定を実施し、入所者にあったパットを選定、職員間にてコスト削減を意識し改善に取り組んだ。その結果、職員間の排泄ケアの統一と、コスト削減にも繋がったのでここに報告する。

### 【研究目的】

入所者に合ったオムツや排尿パット類の選定と業務改善の取り組みから、職員にコスト意識を認識させ、コスト削減に繋げる。

### 【研究方法】

1. 研究期間：対策前：2021 年 4 月～3 週間  
対策後：2021 年 7 月～3 週間
2. 対象：入所者 33 名（排尿パット使用者）
3. 内容：
  - ①排尿パットを吸水量 900g から 600g へ変更。
  - ②職員へ適切な排尿パットとコストへの意識度についてアンケートを毎週(6 週間)実施
  - ③排尿パット類の金額を可視化し周知を行う。

### 【結果】

排尿パットを 900g から 600g に変更し、コスト面では 3 週間で 2 万円弱の経費削減に繋がった。職員アンケートの結果、週を追うごとに排泄ケア用品の金額と適正パットの理解度が上がってきた。

### 【考察】

排泄ケア用品の見直しから、尿量が少ないのに吸収量が多い排尿パットを使用する傾向は減少し、波及効果があったと考えられる。また、排尿パット類の単価を可視化したことで必要な排泄ケア用品を選定する事の重要性を共有し、職員のコスト意識の向上に繋がり無形効果があったと考えられる。

松田によると「排尿パットの選定には吸収量や適切なサイズ、通気性、皮膚との接触面の考慮が必要だ」と述べていることから、同様に職員間で検討し実践した事でケアの質と意識を高めることができたと考える。

皮膚トラブルの報告がなかったことにおいても成果と考えられる。

### 【まとめ】

今回、入所者の排泄データを収集し、排尿量や適切な介助時間の割り出しと職員間での情報共有を行った事で、職員一人一人が自ら考えて意見交換をする事が出来た。意見交換する事で意識向上に繋がり、入所者の身体状態や介助方法と日々の観察力に磨きがかかった、使用するパットを適切に選定し下着交換回数や時間交換を見直す事でコスト削減にも繋がる。

### 【おわりに】

今回の研究を行い、コスト削減と、職員の意識改善が表れたので今後も継続できるよう取り組んでいく。